

西区民生委員児童委員福祉活動交流研修会

3カ年（平成23～25年）統一テーマ
「地域の人々に寄り添う力をつくる」

平成25年度テーマ
「地域に根ざした民生委員・児童委員になるには」

[報 告]



平成25年9月

西区民生委員児童委員協議会
社会福祉法人 神戸市西区社会福祉協議会
西 区 保 健 福 祉 部

平成25年度のまとめとして —地域力の向上に大きく貢献—

西区民生委員児童委員協議会

会長 山崎敏輝

西区民生委員児童委員の皆様が、活動交流研修会の3カ年の統一テーマ「地域の人々に寄り添う力をつくる」という課題に熱心に取り組んでいただき、地域での福祉力の向上に大きく貢献していただきましたことに、深く感謝と敬意を表します。

この事業は現在では神戸市民児協を代表する活動事例として、全国的に注目されるに至っています。その理由は、この研修方式が受講型ではなく、地区民児協会長によるプロジェクト会議を立ち上げて論議を重ね、テーマづくりから全委員のアンケートによる意見集約と、グループディスカッションの組み立てまで、事務局や区社協と一緒にやっての私たち民生委員児童委員の手作りで準備を進め、開催してきたからです。

今年のテーマは「地域でのコミュニティづくりのあり方」の問題と「民生委員同士のチームワークづくり」の課題について、日頃に民生委員児童委員がご苦労していただいている事柄を意見交換していただきました。

結論的には、地域の団体・組織との関係については、トップ同士のコミュニケーションを深め、お互いの人間関係を信頼と思いやりの心で相互理解を深めることが大切と考えます。地区民児協内でのチームワークについては、今年が一斉改選期であることから、候補者推薦に当たっては適任者の人材発掘に努めることが大切であること、また委員同士がお互いに相手を理解し、思いやる心で信頼関係を築くことが何よりも大切だと考えます。

確かに昨今の地域社会は複雑化し、地域の間人間関係が希薄化しているなかで、私たちの役割も増えて負担も大きくなっていますが、行政や関係諸団体との協力協働で乗り切っていく心構えが大切です。

自分たちの生活も堅持しつつ、無報酬で地域の弱い立場の方々を支援する民生委員児童委員は地域の宝です。これからもお互いに助け合い支えあって前進してまいりましょう！

西区民生委員児童委員福祉活動交流研修会を終えて

西区民生委員児童委員協議会

プロジェクト会議 議長 世良 英雄

今回の研修は3年目の最終年度にあたる研修であり1年目、2年目の研修会も立派なものであっただけに、検討会グループの立ち上げからかなりのプレッシャーを感じていましたが、メンバーの会長の熱意と事務局の全面的な協力を得て何とか成果ある研修会であったのではないかと考えています。

3カ年の統一テーマ「地域の人々に寄り添う力をつくる」と定めて取り組んできました最終年の平成25年度のテーマは「地域に根ざした民生委員・児童委員になるには」としました。

そしてグループワークとして

テーマ1 地域活動及び地域の人々にどう関わるか

テーマ2 委員同士の協力、協働のあり方を考える

とし、日頃民生委員の活動の中で感じている「思い」や「課題」を事前に全民生委員からのアンケートを地区ごとに集約したものを基礎資料として委員同士で意見を出し合い、話し合った結果を全グループより発表してもらいました。

いろいろな研修会が実施され講演会や講座を開くことも大切ですが、民生委員一人一人が自分達の意見「本音」をぶつけあってディスカッションすることが一番大切なことであり、身につくのではないのでしょうか。

グループ分けについては人数、経験年数、話し合う時間等、今後の課題として検討していく必要があるのではないかと思います。

研修会アンケートに書かれていた内容等については、次回以降の研修会に活かしていけばさらに充実した内容の研修成果が得られるのではないかと思います。

検討会グループの会長さんをはじめ、事務局また多くの皆さまの協力を得ましたことを心からお礼申し上げます。

1. 概要

(1) 目的 西区内の民生委員児童委員協議会は、地区ごとに高齢者見守り活動、すくすく訪問などの子育て支援活動、また、地域の実情に応じた様々な活動を展開しています。

この研修会では、民生委員活動のテーマに沿ってグループに分かれ、情報交換や相互交流を行うことにより、今後の民生委員児童委員活動をより充実したものとすることを目的に開催します。

(2) 主催 西区民生委員児童委員協議会
社会福祉法人 神戸市西区社会福祉協議会
西区保健福祉部

(3) 日時 平成25年7月24日(水) 13:30~16:00

(4) 会場 なでしこホール(西区民センター 2階 大ホール)

(5) 参加者 地区会長 18名
地区副会長 23名
地区委員 71名 計112名

【西区の概況】

神戸市の西端に位置し、面積は全市域の4分の1を占め、北区に次いで2番目の広さである。

人口は約25万人と市内9区中最多であり、15歳未満人口比も約15%と9区中最多で、若年人口が多いことが特長である。一方、65歳以上の人口割合は約20%と市内最小であるが、高齢化率は年々高くなっている。

また生活保護受給世帯は、3,198世帯・人員5,039人(H25.7現在)と生活保護受給率は2.03%(人員比)と、5年前と比較して約1.37倍(人員比)になっており高齢化とともに課題となっている。

◆人口: 250,153人(H25.7.31現在)

◆世帯数: 102,238世帯

◆面積: 138.02 km²

※人口・面積とも加古川市とほぼ同様

◆高齢化率: 20.0% ※65歳以上人口比
(男性18.5%、女性21.3%)

◆生活保護受給率(人員比):

2.03%(H25.7現在)

◆民生委員・児童委員数(H25.8.1現在):

19地区 347名(男性117名・女性230名)

◆見守り世帯数(H25.9.1現在):

65歳以上単身高齢者世帯 : 5,049世帯

75歳以上高齢者のみの世帯 : 1,292世帯

2. プロジェクト会議による運営

西区民児協会長を総括、西区民児協副会長1名を議長として、地区会長5名の合計7名により、研修会開催に向けたプロジェクト会議を編成した。

議長の運営によるプロジェクト会議を中心に、平成25年度テーマ、地区の活動状況報告のとりまとめ、研修会の内容などを検討・協議し、当日の運営を行った。

プロジェクト会議は7回開催し、本報告書の作成も行った。

担当	会長名	地区
総括	山崎 敏輝	桜が丘
議長	世良 英雄	押部谷東
	久保 晶一	有瀬
	河内 好子	西神東
	宮本 美津子	西神西
	石山 康弘	玉津西
	藤田 美佐子	岩岡



3. 運営方針

(1) 3カ年統一テーマ（平成23年度～平成25年度）

地域の人々に寄り添う力をつくる

(2) 平成25年度テーマ

地域に根ざした民生委員・児童委員になるには

3カ年統一テーマに基づいて、平成25年度テーマを「地域に根ざした民生委員・児童委員になるには」とした。

(3) グループワークテーマ

プロジェクト会議で決定した「平成25年度テーマ」に基づいて、民生委員活動の課題や悩みなどを検討し、グループワークを行う上での2つのテーマを設定した。

また、2つのテーマに沿って、各地区における日頃の民児協活動の中で感じている「想い」や「課題」について、事前に地区の活動状況を集約し、グループワークを進める上での基本資料とすることとした。

テーマ1 地域活動及び地域の人々にどう関わるか

テーマ2 委員同士の協力・協働のあり方を考える

(4) 地区活動状況報告の共有

集約した活動事例を冊子にまとめ、参加委員に事前に配布し、会長、副会長とともに地区内で話し合いを行うなど、交流研修会が地区の実践を踏まえたものとなるよう努めた。

(5) グループワークと発表

参加者を8名から9名ごとに1グループを構成し、計11グループに分かれ、課題や対応について意見交換を行った。

各グループの「司会者」「発表者」「書記」は、各地区から推薦された委員が担当し、参加委員自らがグループワークを進めていった。

グループワークは付箋を使ったブレイン・ストーミングにより行い、各グループで話し合われた結果を全参加委員と共有するため、全グループより発表を行った。

(6) 研修会スケジュール

時間	内 容
13:30	開会あいさつ 西区民生委員児童委員協議会 会長 山崎敏輝 オリエンテーション 西区民生委員児童委員協議会 副会長 世良英雄
13:40	進行上の留意点 社会福祉法人 神戸市西区社会福祉協議会
13:55	(会場移動)
14:00	グループ交流 ※2つのテーマで8グループを編成 ※会長グループは2グループ、副会長グループは3グループを編成 ※計13グループに分かれて、付箋を使ったブレイン・ストーミングにより意見交換の交流
15:00	(休憩・発表準備)
15:10	グループ発表 ※11つのグループ発表者より、意見交換の内容を3分間で発表 ※会長グループ2グループは、グループ交流の最後に発表し合い、2グループをまとめて発表
15:50	総 括 西区保健福祉部 部長 川田誉史子
16:00	(閉 会)

(7) 地区民児協活動への結び付け

交流研修会で話し合われたことは、参加委員が各地区定例会などで報告し、研修会で得たことを全委員で共有する。また、その共有を基礎として、今後の地区民児協活動の計画や、具体的な活動内容に結び付けていくこととする。

【テーマ1】

地域活動及び地域の人々にどう関わるか

主な論点

- ◆ 委員活動における課題について
- ◆ 高齢者への訪問活動について
- ◆ 地域の方々への対応の仕方について

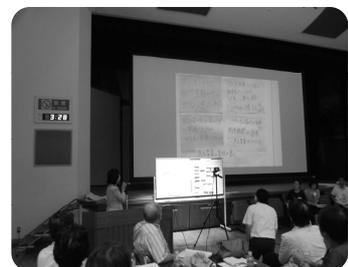
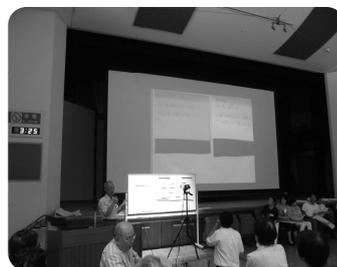
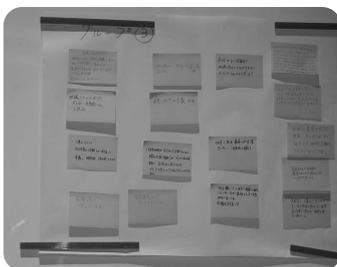
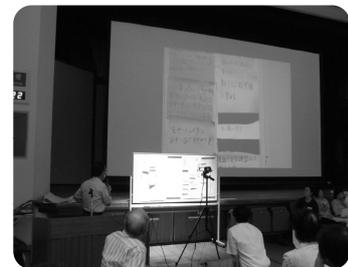
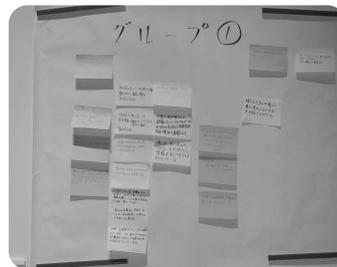
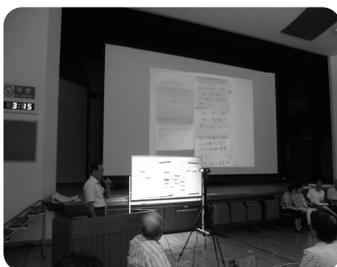
地域に根ざすためには、地域の関係団体（自治会やふれまち協などの地域団体）や関係者と顔をつながけながら、ともに活動していくことが大切である。

どのように地域の活動に関わり、地域の人々に関わっていけば良いのかを、各地区民児協の取り組みの中で「現在、できていること」「今はできていないが、将来的に取り組むことが必要だと考えていること」などの意見交換を通じて考える。

【グループワークの様子】 >



【グループ発表の様子】



＜グループワークのまとめ＞

テーマ1 地域活動および地域の人々にどう関わるか

内部環境

強み(Strength)

～民生委員の強み～

- 民生委員活動には長い歴史があり、先人からの重要な働きかけが地域を支えているという自信と誇りがある
- 行政、関係機関・団体などからの信頼が大きい
- 民生委員同士、活動の苦労や喜びを互いに共有できる関係にあり、助け合いの基盤がある
- 苦労は多い一方、住民から感謝されることも多く、やりがいは大きい

弱み(Weakness)

～自らの課題～

- 自分だけで課題を背負い、活動の目標と意味を見失うことがある
- 地域行事への支援や協力活動が多く、本来の任務に支障をきたしている
- 地域活動の担い手が民生委員以外に少なく、地域が活性化しない
- 住民の生活課題が多様化する中、民生委員の負担が毎年大きくなり、多忙を極めている

対策
方向性

強みを生かす活用策

- 民生委員の役割と活動の重要性が高まる一方、なり手が少ない状況等を日頃から地域で共有するとともに、自治会をはじめ、地域団体・近隣住民等との協力体制を築いておく

弱みを克服するための対策

- 新聞配達・宅配業者等との協力や、友愛訪問グループの活用を進める
- 行政等の発行物を積極的に活用する(訪問の理由づけ、会話の材料等)

機会を逃さない積極策

- 民生委員が地域の生活課題を事前に解決している現実を積極的に示す
- 民生委員候補者の推薦にあたって、日頃から適任者の人材発掘に努める

脅威を回避するための対策

- 行政・専門機関・社協などの関係機関と連携し、協力・協働する
- 自己負担を減らし、余裕を持って活動している姿勢を意識的につくる

外部環境

機会(Opportunity)

～転機・チャンス～

- 団塊の世代の地域参加、地域貢献に対する意識を活かすことができる
- 子育てを通じた地域行事の参加など、若い世代が地域参加する機会が増え、多世代交流が進んでいる
- 介護、子育て等に対する地域コミュニティづくりの機運が高まり、住民相互の支えあい意識が芽ばえている
- 民生委員への地域住民からの信頼は厚く、社会的役割は非常に大きい

脅威(Threat)

～外部環境の課題～

- 民生委員活動の理解と認知度が低い
- 訪問・対応困難ケースが急増している(訪問拒否・閉じこもり・認知症、またオートロックマンション等)
- 認知症夫婦や中高年のひきこもり、発達障害など、民生委員としてかわりが難しいケースが増えている
- 欠員地区の増加や後任がいないなど、次の地域福祉を担うべく後継者が育っていない

このまとめは、「SWOT分析」という組織のビジョンや方針を企画立案する手法で作成しました。

さまざまな要素を、S(強み)・W(弱み)・O(機会)・T(脅威)の四つに分類し、マトリクス表にまとめることにより課題が整理され、解決策を見つけやすくなるという特徴があります。

【テーマ2】

委員同士の協力・協働のあり方を考える

主な論点

- ◆ 委員同士の役割分担について
- ◆ 委員の負担増について
- ◆ 委員同士のコミュニケーションについて

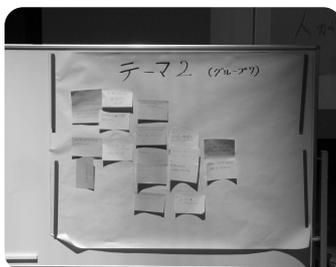
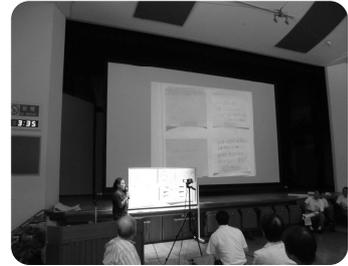
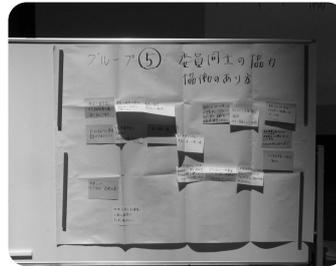
地域で支援を要する人々が抱える課題はさまざまである。委員一人が悩み、抱え込まずに、委員同士の協力・協働により、地区民児協として取り組んでいくことが必要である。

各地区民児協の取り組みの中で「現在、できていること」や「今はできていないが、将来的に取り組むことが必要だと考えていること」などの意見交換を通じて、委員同士の協力・協働のあり方について考える。

【グループワークの様子】



【グループ発表の様子】



< グループワークのまとめ >

テーマ2 民生委員同士の協力・協働のあり方を考える

内部環境

強み(Strength)

～協働の強み～

- 緊急ケースや困難ケースなどは、他の委員も駆けつけ複数対応している
- 同じ悩みや喜びを共有する民生委員同士だからこそ解決できることも多く、フリートークを大事にしている
- 地区民児協で意識的に学習会や交流会を計画するなど、チームワークの強化に取り組んでいる
- 共同作業は委員同士のチームワーク作りの大きな材料である

弱み(Weakness)

～協働の課題～

- 委員活動は、「自分ができる時に」「可能な範囲内」が基本と考えているが、昼夜を問わず住民からの相談や緊急対応など、自らの生活への影響が少なからずある
- 地域行事への参加、協力が多すぎる
- 活動が住民に理解されにくい中で、近隣との付き合いが少なく閉じこもりがち等、接近困難（見守り困難）ケースの訪問・対応に苦慮している

対策
方向性

強みを生かす活用策

- 民生委員としての専門性を生かし、個人の状況にあった効果的な活動
- 委員同士が相手を思いやり、助けあうことがチームワークの基本である

弱みを克服するための対策

- 自治会組織での見守り活動など、見守りを支援する新たな仕組みが必要
- 自らの限度を越え、無理をした活動をしていないか、振り返りが必要

機会を逃さない積極策

- 近隣協力者やあんすこセンター等と連携し、負担軽減をはかる
- 民生委員の重責を軽くするための取り組みが、さまざまな角度から必要

脅威を回避するための対策

- 支援員を選任したり、友愛訪問グループを組織して支援体制をつくる
- 定年退職者や子育てが一段落した方など、地域人材の発掘に努める

外部環境

機会(Opportunity)

～転機・チャンス～

- 行事の参加は民生委員にとって負担となっているが、全員で分担するとともに、急用時は快く交代できる体制が築けることが、良好なチームワークづくりの材料となる
- 委員だけの活動には限界があり、自治会組織での見守り活動など見守りを支援する新たな仕組み検討している
- 困難事例はあんすこセンターに移管するなど、抱え込まないこと

脅威(Threat)

～外部環境の課題～

- 他の地域団体とのコミュニケーションがうまくとれていない
- 単身高齢者が増え、負担が急増している
- 担当区域の地域差が大きく、民生委員同士の負担の差が大きい
- 改選期を迎えるが、後継者の不在は大きな課題であり、これは結果として正副会長をはじめ各委員の負担増となるなど、悪循環につながる

このまとめは、「SWOT分析」という組織のビジョンや方針を企画立案する手法で作成しました。

さまざまな要素を、S(強み)・W(弱み)・O(機会)・T(脅威)の四つに分類し、マトリクス表にまとめることにより課題が整理され、解決策を見つけやすくなるという特徴があります。

【会長・副会長グループテーマ】 地区民児協の協力・協働のあり方を考える

主な論点

- ◆ 委員選出における課題について
- ◆ 地区民児協内での役割分担・コミュニケーションについて
- ◆ 委員の欠員や後継者不足への対応について

各地区の会長を9名と10名でA、Bの2グループに、副会長を8～9名の3グループに分け、課題や対応について、付箋を使ったブレイン・ストーミングによりグループワークを行った。

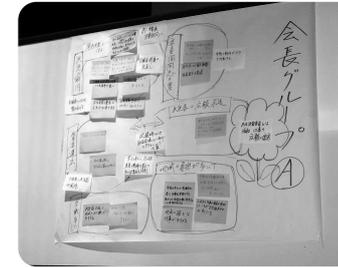
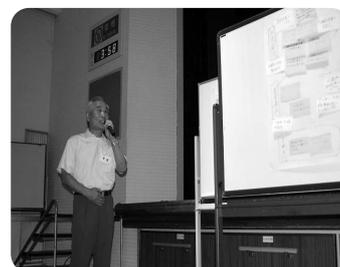
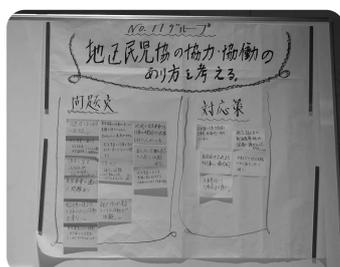
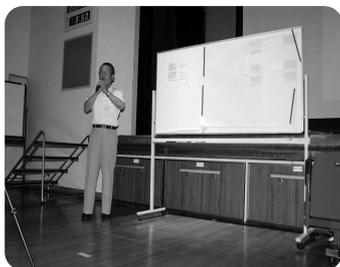
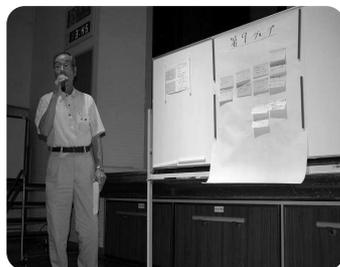
各グループは、熱心な議論の結果を発表しあい、各地区における協力・協働のあり方について共通認識を得るための意見交換を行った。

全参加委員へのグループ発表では、会長グループは2グループをまとめて、副会長グループは各グループより発表した。

【グループワークの様子】



【グループ発表の様子】



テーマ3 地区民児協の協力・協働のあり方を考える

内部環境

強み(Strength)

～民生委員の強み～

- 西区民児協としての協力体制が確立しており大変心強い。この交流研修会の実施方法もそのひとつである
- 経験豊かな委員も多く、新人委員への説明をはじめ、困難ケースの対応など、伝承の体系化ができています
- さまざまな課題を抱えた委員に対して、正副会長や中堅委員がペアで動くなど、委員同士が支えあっている

弱み(Weakness)

～自らの課題～

- それぞれが多忙な中、研修会や行事参加を依頼しにくく結果的に自身や特定の委員に負担が偏りがちである
- 意識の違いや、協調性の欠落など、委員の経験や理解度の差が大きい
- 自治会、ふれまち協の民生委員活動に対する理解度が弱い
- 欠員にあわせ、地域性による差があるなど、委員間の業務量が不均衡となり、不満の一因につながっている

対策

強みを生かす活用策

- 後任が決まらない時など、委員の任務を軽く伝えて依頼しがちである。委員同士の協力体制等も伝え、委員として適切な人材確保に努める

弱みを克服するための対策

- 人間関係の調整は、正副会長の重要な役割のひとつである
- 日頃からの学習・研修の機会を大切に、委員相互の資質向上をはかる

方向性

機会を逃さない積極策

- 地域団体への働きかけを強め、課題の共有など相互の理解と支援を推進
- 経験豊かな委員との協力、支援員配置、友愛訪問グループの組織化

脅威を回避するための対策

- 委員活動は、人間性を高め、互いを思いやる気持ちを培う。仕事に介護と多忙な方が多いが、自らの生活向上のため、両立にチャレンジを！

外部環境

機会(Opportunity)

～転機・チャンス～

- 地域団体は、トップ同士の関係が悪くなる傾向にあるが、互いに認め合い、課題を共有することで、双方の役割分担が進み、改善につながった
- 委員は地域のオピニオンリーダー的役割もあり、行政等に対し意見できる立場にもある。影響力は大きい
- 青少年の指導に苦慮することが多いが、協働対応を契機に青少協との連携が進んだケースも多い。地域団体は互いに課題を共有することも重要

脅威(Threat)

～外部環境の課題～

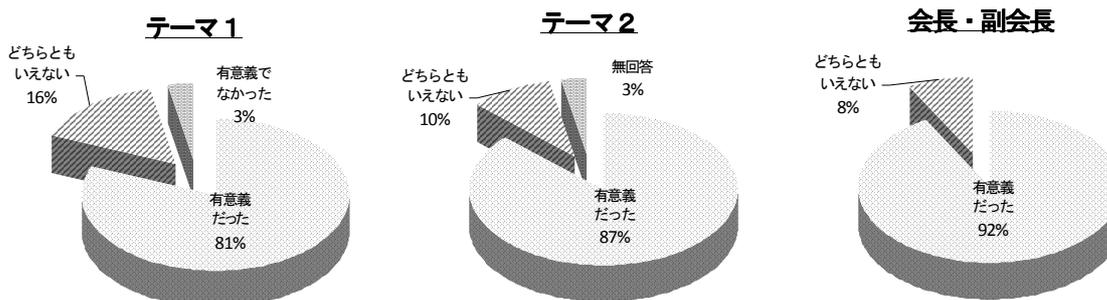
- 委員の欠員、後継者不足など余裕のない状況が慢性的に続いている
- 知らない間にマンションが建築されるなど、負担が一気に増えることが多く、協働の支障となっている。
- 委員自ら要介護者を抱えていたり、仕事を持つ方が増えている。
- 自治会未組織や連合非加入の自治会が増え、互いの意思疎通や組織決定、実行が困難となっている

このまとめは、「SWOT分析」という組織のビジョンや方針を企画立案する手法で作成しました。

さまざまな要素を、S(強み)・W(弱み)・O(機会)・T(脅威)の四つに分類し、マトリクス表にまとめることにより課題が整理され、解決策を見つけやすくなるという特徴があります。

4. 交流研修会を終えて

(1) 満足度 (参加者アンケートより)



(2) 研修会を受講して、得られたこと

他の地域の方と交流や情報交換ができた

- ・ 各民児協の問題点を聞くことが出来て良い。
- ・ 各地区からのいろいろな意見を聞いて話し合いが持てて良かった。
- ・ 問題・課題の共有化が進んだと思う。
- ・ 各地区民生委員の活動の様子がよく分かった。
- ・ 見守り活動の具体的な方法が学べた。今後に活かしていきたい。
- ・ 独居の方とのコミュニケーションの取り方がよく分かった。
- ・ 具体的事例など、当事者同士話し合えた点が良かった。
- ・ 一人暮らしの方の訪問は大変という事を痛感しました。
- ・ 民生委員としての活動の大変さと喜んで頂けた時の嬉しさを共有できた。
- ・ 様々な地区の方の意見を聞いて参考になった。グループは話しやすい方が多く、楽しかった。
- ・ 各々が問題意識を持っており、見守り活動に活かせる事も多々あり、有意義でした。
- ・ 本音でトークが出来た。
- ・ 他のグループと共通する問題があり、根本的な事と思った。前向きに進むしかない実感。
- ・ 問題解決にヒントを得られたこと。
- ・ 悩み事は数々ありますが、少し解決出来た。お互いに活発な意見を出すことができた。
- ・ 各々が抱えている問題、悩み等を話す事により解決策を検討できた。
- ・ 各地域の様子が理解でき、共通する部分もある事が分かり、今後相談しやすくなった。
- ・ 地区民児協、ふれ協を運営していく立場ならではの問題意識は共通項が多く、深い話が出来たこと。
- ・ 旧地区、新住民の差はあれど人間関係はなかなか難しい。本音が聞けて良かった。

悩みの共有ができた

- ・ 皆様も同じ悩みがあるのだなと感じた。
- ・ 他の地域でも同じ悩みを持っていること、自分の地区が恵まれていることが分かった。
- ・ 民生委員の後任について同じ悩みを持っている。
- ・ これで良いという正解はない。深くかかわれば「キリ」がないと思われる。

- ・ 地区は違っても、悩みは共通で励まし合うことができた。
- ・ 民生委員個人の悩みは、皆が共有している。改革される事は難しい。
- ・ 各地区での悩みの多さを感じた。その中で工夫して解決していくことが大事だと感じた。
- ・ 各地区とも多くの悩みを持ちながら、運営されていることを知り、共通の思いを共有できた。
- ・ 会長として同じ悩みを持つ人がいて気持ちが晴れた。

具体的なアドバイスやヒント、課題

<テーマ1>

- ・ 地域活動について たくさんの人達との関わりが大切。

<テーマ2>

- ・ 委員同士のコミュニケーションの大切さ。
- ・ 支援員の必要性を再認識した。
- ・ やはり人と人との関わりが大事であり、面倒なことや上手く行かないことがあるが、それも大切。
- ・ 民生委員の仕事を地域に分かり易く広報する必要。
- ・ ボランティアをされてる方々を常に心に留めておく。
- ・ 男性委員・女性委員の構成比によって、給食活動等の役割の工夫の仕方。
- ・ あんしんすこやかセンターともっと協力・協働する。
- ・ ボランティアとの関わり方、募集の仕方。

<会長・副会長テーマ>

- ・ 地域性により民生委員の活動量・内容に違いがあること。
- ・ 民生委員としての自覚と人間性が、各地区の問題として見えてくる。
- ・ 民生委員の任務を国・市・区でPRしてほしい。

その他

- ・ 他の地区の委員さんと顔見知りになった。
- ・ 皆さん、それぞれ苦勞されていることが分かった。
- ・ もう一度、一からがんばります。
- ・ 共通の課題もある反面、個別の課題について議論できなかった事が残念。
- ・ 情報発信力の弱い点を改めて感じました。
- ・ 民生委員同士の意見交換が必要と感じられた。
- ・ 色々な意見がもっと聞きたかった。
- ・ 他地区の問題を聞かせてもらうことで自分たちの地区の良さが認識できた。
- ・ 意見交換を含めて意義があった。
- ・ グループテーマが参考になった。これからの活動に活かしていきたい。
- ・ 発表された方々は素晴らしかった。堂々としていた。
- ・ 他団体との活動の中で民生委員の役割の重要性。
- ・ 発表までの内容のまとめ方が勉強になった。

- ・話し合いを行うことが良いことだと実感した。
- ・もう少し長い時間テーマを決めないで問題について討議できれば良いと思う。
- ・他地域の方と交流が出来て良かったですが、時間が短すぎると思います。
- ・民生委員自身、話す事によってストレスが発散出来ると思います。
- ・地域によって民生委員の選出方法が違う事がわかった。
- ・討議・交流の中で参考になる部分も沢山あり良かった。

(3) 研修会を受講して、感じたことや次回に希望する研修テーマなど グループ交流について

- ・自分達の悩みなどグループで色々な話し合いをしたらどうか。
8人～10人位の方が色々意見が出て勉強になると思う。
- ・1グループが6～7人の方がもっと意見が絞れるのではないかと思った。
- ・新人と長年してる人を半分ずつのグループ構成にしてほしい。
- ・テーマをもう少し絞った方が短い時間なので良いのではないかと思う。
- ・副会長だけのグループは初めてだったが、地区民児協、ふれ協を運営していく立場
ならではの問題意識は共通項が多く、深い話ができ良かった。
- ・付箋に書くことで時間短縮ができた。でも話したい。
- ・副会長会では、グループ討議の時間を長く取ってもらいたいという声が多かった。
- ・今回は改選の事ばかりがテーマになってしまっていたと思う。
- ・意見交流を図れてよかった。

研修会について

- ・日頃お会い出来ない方と話し合えて、有意義だと思いました。
- ・平日だと仕事を休む必要があるので、研修は土日にも入れるようにしてほしい。
- ・研修→発表という形ではなく、フランクに日頃の問題や悩みを話し合う場があれば良い。
- ・グループ討議だけで良い。
- ・民生委員の負担が少なくなるような研修会があれば、参加していきたい。
- ・民生委員の役割がどこまで関わるべきなのか事例を含めた研修会にして欲しい。
- ・研修もよいけど、民生委員同士の親睦会的なものによってコミュニケーションを図りたい。
その中から本音の部分もわかると思う。
- ・研修会はたくさんありますが、自分達の手作りで身近な問題を話し合う事に大変意義がある。
- ・今後も民生委員の意識を高める様なテーマで続けてほしい。
- ・会長、副会長の横のつながりを作る集まりがとても大切と感じた。
- ・今回とまた違った形の研修会も必要。
- ・3年間統一テーマであったが、交流研修会自体がマンネリ化の方向に来ていると感じた。
- ・パワーポイントの採用は大きな前進です。

- ・グループ討議に入る前の「聞く」と「聴く」の話は、大変良かったです。
- ・メンバー間でフリーに悩みやこんな事例はどうやって解決しているの？等、話し合える研修も良いのではないかと感じた。
- ・発表の時間がもう少しとれたら良いと思いました。

今後の研修会でしたいこと

- ・後継者作りに関する事。
- ・大変なことです、資質向上の研修会が必要と感じました。
- ・民生委員としての事例
- ・地域における地域活動の人材発掘
- ・地域の取り組み（民生委員が関わっている）について、年間を通してどんなことをして取り組みの中でどんな関わりをしているのか？
- ・民生委員活動を、地域の人にどう知ってもらうか。
- ・民生委員と自治会との協力のあり方。
- ・青少年との関わり方（青少年非行防止）
- ・民生委員同士のコミュニケーションの取り方
- ・地域での民生委員の任務と団体としての役割。

民生委員として

- ・委員さんの楽しい事とか、ありがたい事も聞けると次の委員さんの励みになりますね。
- ・民生委員としてみなさんが努力されている姿に感動した。一步でも近づきたいと思う。
- ・長期に渡り、民生委員となるケースもあるが、決して良策とは思えない。
友愛訪問グループを募り、その中から意識を芽生えさせ、生活しやすい地域づくりと民生委員になってもいいと思える風土づくりをしてはと思った。
- ・民生委員の責務をはっきり住人にもわかってほしい。
- ・民生委員はこれからも大切な役割を担い、しんどい割に評価されていないのではないか。

感想

- ・グループ討議も活発にでき、よい研修会でした。
- ・本日のテーマは永遠の課題です。引き続き、くり返して頂けたらいいと思います。
- ・民生委員の努力も認めて、役所ももっと協力をお願いします。
- ・地域性があるので全体の話し合いは勉強になる。
- ・この問題を委員全員で考える機会を持てたらと思いました。
- ・一斉改選なので、人選についても副会長は関わりが深いので全体で話す場があっても良い。

※重複するご意見等は要約して掲載いたしました(事務局)

プロジェクト会議に参加して

(地区順に掲載)

今年度プロジェクトの担当となり、テーマについて、民生委員・児童委員はどうあるべきか、どのような姿がふさわしいかと考えました。

会議では3年間の統一テーマをふまえ、議論を重ねた結果「地域に根ざした民生委員・児童委員になるには」に決まりました。研修会も無事終えて、プロジェクトに参加できたことは、とても良い経験になったと思っています。

民生委員は地域とのかかわりが深く地域活動に参加する機会も大変多いです。苦勞もたくさんありますが、民生委員活動をアピールするチャンスでもありますから地域住民としっかりとコミュニケーションをとって民生委員活動に活かしていただきたいと思います。

民生委員同士の協力・協働のあり方については、話し合うことが一番大切だと思います。悩みや疑問を一人で抱え込まず相談したり、また求められればアドバイスをする。そして委員同士が良好な関係で協力し合うことが大切です。

今回の研修会に参加された方々がこの研修会で感じたことを活かしながら地区民児協の発展に貢献し、リーダーシップをとっていただくよう期待します。がんばりましょう！

(有瀬地区民児協 会長 久保 晶一)

今回は「地域に根ざした民生委員・児童委員になるには」というテーマで研修が行われました。テーマ①は「地域活動及び地域の人々にどう関わるか」、テーマ②は「委員同士の協力・協働のあり方を考える」というものでしたが、地区民児協ではテーマ②に比べ、テーマ①に参加を希望する声が多くありました。

2つのテーマとも地域活動をする上で一人よがりにならず、人の話を聞ける民生委員でありたいと常に願っている身としてはとても大きな事でした。

地区を越えた民生委員同士が持つ悩みや良かった事等を話す機会はあまりありませんが、お互いに共通のものを見い出せたり、思いもかけない事を聞かせてもらったり私にとってとても刺激になりました。

いま取り組んでいる奉仕活動にさらなる人間力を高め、地域住民の信頼を得られる力をつけてもらえる良い機会と思いますので、自分を磨く研修に参加していきたいと思います。

(西神東地区民児協 会長 河内 好子)

平成23年度から3カ年にわたり「地域の人々に寄り添う力をつくる」を統一テーマに協議を重ね、最終年の今回、私たち民生委員・児童委員が目指す「地域に根ざした民生委員・児童委員になるには」をテーマに有意義かつ熱心な交流、研修が重ねられました。

その中で私たちが地域活動を実践していくうえで最も大事なことは、まず委員一人ひとりが地域の一員であるという認識を持つこと、そして私たち民生委員・児童委員同士の活発な交流と、他の多くの地域活動団体と交流を深め、緩やかな連携で繋がっていく。このことこそが「地域に根ざした委員になる」ことの第一歩ではないかという共通認識がもてたことではないでしょうか。

また、この交流研修会で各地域の実情や委員の率直な意見交換などが行われたことも意義深いものがありました。これからは私たち委員全員がこの研修会を通じて得た課題と方向を今後の実践活動に活かしていくことが求められていると思うのです。

(西神西地区民児協 会長 宮本 美津子)

本年度は、研修会も3年目の最終年に入りましたが、今回はプロジェクトメンバーとして研修会に関わりを持ち、何とか出席各地区委員の皆さんに、参加して良かったと言ってもらえるようなテーマをと考えメンバーで決定いたしました。

いつも思うのですが、本交流研修会は他の講演会のような研修会に出席するよりも十分に意義・効果があると考えています。よって当地区も過去に参加していない委員を中心に選出させていただきました。

又、今回は事務局担当者の異動などもあり、従来とは違った方法でメンバーで熟慮の結果、プロジェクターの使用やパワーポイントの採用など発表の仕方にも工夫を凝らしてみました。発表された方々も本年度はとてすばらしい方たちばかりだったので感心しました。

委員の皆様にはそれぞれ悩みもお有りでしょうが、友愛訪問された時のうれしそうな顔、給食会や喫茶での楽しそうな笑顔を励みに、今後も民生委員活動に励みましょう。

(玉津西地区民児協 会長 石山 康弘)

統一テーマ「地域の人々に寄り添う力をつくる」で進めてきた1年目、2年目、多くの問題、課題が出ました。

3年目の今年は「地域に根ざした民生委員・児童委員になるには」とテーマを決めスタートしたプロジェクトチームです。各人が地域の人々とどう関わっているのだろうか？委員同士での協力、協働はどうなのだろうか？それぞれの地域でどのように話し合い意見交換されたのだろうか？と、期待の月1回の会議でした。

何事も振り返る、足元を見る、考える、この過程が大事だと思います。活動の苦労、悩みを共有し互いに協力し協働する事が資質向上になり、それが福祉力アップに繋がるのです。地域を動かす力になるのです。安心、安全、健康なまちづくりの力になると思います。

この研修会の良い体験、経験が全員に出来るよう一考する必要を感じながら、この取り組みが今後益々栄え、深まる事を期待します。

(岩岡地区民児協 会長 藤田 美佐子)

～編集後記～

「地域の人々に寄り添う力をつくる」を統一テーマに、子ども・高齢者にどう寄り添うかに続いて、今回の「地域に根ざした民生委員・児童委員になるには」まで、3カ年連続で企画されたこの研修に、多数の委員が参加されました。

担当地区が違っても、日々の活動の苦労を分かち合い、やりがいを共有できる者同士、日頃培われた傾聴力を生かして、活発かつ深い意見交換をされ、終わる頃には「しんどいけどまた一緒に頑張ろう！」そんな声が多く聞こえてきました。

地域のさまざまな社会資源と連携しながら「つながり支えあう」地域づくりを支えるキーパーソンとして、この研修を機に、また新たな一歩を踏み出され、さらに発展されることを祈念しています。

(事務局：神戸市西区社会福祉協議会)



平成25年度 西区民生委員児童委員福祉活動交流研修会

発行日 2013年9月26日
発行 西区民生委員児童委員協議会
西区保健福祉部
社会福祉法人 神戸市西区社会福祉協議会
<お問合せ先>
社会福祉法人 神戸市西区社会福祉協議会
〒651-2195 神戸市西区玉津町小山180-3 西区役所内
TEL 078-929-0001 (代) FAX 078-924-3170
E-mail nishiwel@trust.ocn.ne.jp

